

UJITUMUGI 宇治紬物語

第7回現代手織物クラフト公募展「表彰式 取材レポート」

～駒ヶ根シルク博物館～



第7回現代手織物公募展

会 期:2014年10月9日(木)～11月16日(日)

9:00 ～ 17:00 休館日 水曜日

会 場:駒ヶ根シルク博物館 展示室

主 催:現代手織物クラフト公募展 実行委員会

共 催:駒ヶ根シルクミュージアム・織の財団

後 援:長野県・駒ヶ根市・日本紬織物文化協会

信濃毎日新聞社・NHK 長野放送局

SBC 信越放送・NBS 長野放送・TSB テレビ信州

abn 長野朝日放送

現代手織物クラフト公募展・概要

全国で独自の創作活動をしている織物のプロ、および将来プロを目指す方たちが創作した、独創的で優れた織物作品を展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介するとともに、自立の道を拓く支援の場となることを目的とした公募展です。毎年秋に「駒ヶ根シルクミュージアム」(〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地 Tel.0265-82-8381)で駒ヶ根シルクミュージアムと織の財団との共催で開催されています。

「織の財団」は、営利を目的とせず現代手織物クラフト公募展を資金面で支援する組織で、全国からの寄付により運営している団体で、2008年1月に京都府宇治市にて設立されました。

宇治紬物語は資金及び運営の両面で現代手織物クラフト公募展を支援しています。



グランプリに選ばれた池辺みどりさん



杉本幸治 駒ヶ根市長の挨拶で始まりました。

永年にわたり伊那谷の経済を支え、生活の一部となっていた養蚕産業は静かに幕を引きましたが、その伊那谷の養蚕文化の歴史の伝承、生涯学習、都市と農村の交流拠点とを有した広域総合交流促進施設として設立された駒ヶ根シルクミュージアムで開く「現代手織物クラフト公募展」開催の意義は大きい・・・。



駒ヶ根シルクミュージアム名誉館長賞の渡邊紗彌加さん

“日本で手織物に特化した公募展です”

2014年10月8日(水)午後1時より表彰式が行われました。

66点の応募の中から選ばれた50点(入賞9点、入選41点)の作品が展示されます。北海道から沖縄まで、ハイレベルな作品の応募がありました。

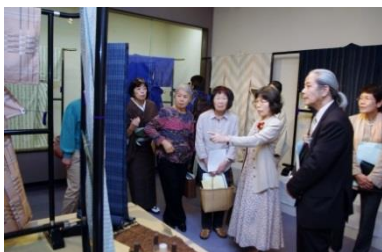


“手織物の着物、帯、反物とタピストリー・アート”

平成20年(2008)に始まり第7回を数えるが、いずれの作品も模様と彩の調和に重きが置かれ、伝統的な技術をベースに、作者の独創性が如何なく発揮したものが多く出品されています。

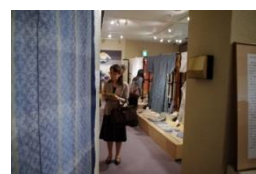
“用と美が相乗していることが求められる公募展”

鑑賞する人々には作品の美しさを楽しみ、実際に身につける人々には、“非日常の世界に誘い幸せな感覚に包まれる”という、用と美が相乗していることが入選に求められる。(富山弘基)



“審査委員の解説や意見交換も・・・”

表彰式の後、展示会場へ移動し審査委員の吉田紘三氏による作品解説と受賞者との意見交換もおこなわれました。



“天然繊維と手織が応募の基本です”

応募には天然繊維を使用することが義務づけられています。それは、手織物の原点を大切にしたいとの思いからです。



“極めてまれなる展覧会”

大きな規模でもなく、中央でもなく地方で開かれる展覧会ですが、参加者は沖縄から北海道まで全国規模。しかも作品の水準は極めて高い展覧会です。

※レポート

織の財団
理事長 山田標件

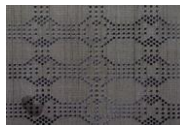


受賞された方々と・・・

「第7回現代手織物クラフト公募展」の表彰式が行われました。ご出席いただいた入賞・入選の皆様と駒ヶ根市長、実行委員、審査委員の先生方です。

第7回現代手織物クラフト公募展受賞作品

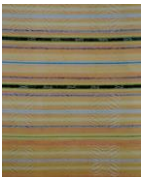
グランプリ・長野県知事賞「流星^{りゅうせい}/池辺みどり」(奈良県) 着物



グレー地に花織とすくい織の技法で絵羽模様をほのかな艶やかさと気品で表現。着る人を引き立てるにふさわしい清涼感が優れていた。

審査委員長 富山弘基

準グランプリ・駒ヶ根市長賞「ストレッチア/照屋小百合」(沖縄県) 帯



リズムカルな地模様、緯糸の明るくてきれいな配色が吸応した、さわやかな作品。色違いに好感がもて、高得点となった。

審査委員 植村和代

準グランプリ・日本紬織物文化協会会長賞「飛躍^{ひやく}/小川孝子」(京都府) 着物



大胆に大きな柄ですが、経ずらしの技法(経緋)を使うことで柄に動きが表現されました。着ることが楽しくなるような着物に仕上がっています。

審査委員 吉田紘三

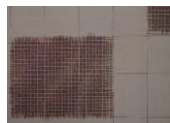
駒ヶ根シルクミュージアム名誉館長賞「綺羅^{きら}～星の如く～/渡邊紗彌加」(滋賀県) 着物



涼感あふれる濃色の絹地風を夜空に見立て、輝く綺羅星を植物染料による染糸を使い、うき織技法で織り表した力作。

審査委員長 富山弘基

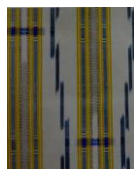
審査員特別賞「涼秋^{りょうしゅう}のこだま/鈴木ゆきこ」(東京都) 反物



経緯緋の単純な柄かと思いましたが、よく見ると経緯緋が細かい網代柄に構成されていました。その織細さが自然の変化を表現しているのかと思った次第です。

審査委員 吉田紘三

織の財団賞「道/大野邦子(愛知県)」(愛知県) 着物



いつも上質の作品を出品される作家の、縞を主にしたこれも理知的な作品。重厚な味わいがあり、織物の奥深さをよく表している。
審査委員 植村和代

特別奨励賞「風紋/三浦千津子」(北海道) 反物



組織(平織とうね織)で市松を表現しています。その市松柄も大小を混ぜ、地組織にも縞を織って為、光の当たり具合で立体的な織物に見える不思議で面白さのある反物に見えました。
審査委員 吉田紘三

奨励賞「蟹絵縞帯地/大熊眞智子」(茨城県) 帯



蟹絵縞文は絵縞木綿でよく知られるが、帯地の絵柄は大変めずらしい。経に麻糸、緯に和綿手紡糸を使い、藍染の手括り縞という本格派の作品。 審査委員長 富山弘基

奨励賞「^{そら}宙に咲く花/近藤里美」(山形県) 着物



地紋の市松は平と畝の組織で織り、「深遠な宇宙空間を白色基調に花織で人々の命を表現しました。」と作者はその思いを綴っている作品。 審査委員長 富山弘基

*全国応募者 66 名、入賞 9 名・入選 41 名・選外 16 名

入賞入選者 50 名県別(北海道 1、青森 1、宮城 1、山形 1、福島 1、新潟 2、長野 1、富山 1、茨城 1、群馬 1、埼玉 2、千葉 1、東京 2、神奈川 3、愛知 13、岐阜 2、滋賀 2、京都 3、大阪 2、奈良、和歌山 1、兵庫 1、岡山 1、高知 1、福岡 1、沖縄 3)

(現代手織物クラフト公募展実行委員会)